

第 36 回 国立研究開発法人防災科学技術研究所契約監視委員会
議事概要

I 日時 令和 8 年 6 月 19 日（金）13：30～15：00

II 場所 防災科学技術研究所 東京会議室
（東京都港区西新橋 2 丁目 3 番 1 号 マークライト虎ノ門 6 階 602 室）

III 出席者

委 員 長	田中 徳夫（岩田合同法律事務所 弁護士）
委 員	品田 和之（品田公認会計士事務所 公認会計士）
委 員	藤田 高弘（国立研究開発法人物質・材料研究機構 前監事）
委 員	小杉 健二（国立研究開発法人防災科学技術研究所 監事）
委 員	根本 裕子（国立研究開発法人防災科学技術研究所 監事）

IV 議題

- (1) 第 35 回契約監視委員会議事概要（案）について
- (2) 令和 7 年度調達等合理化計画の自己評価に対しての点検について
- (3) 令和 8 年度調達等合理化計画の事前の点検について
- (4) 令和 7 年度締結契約における理事長が定める基準による事後点検について
- (5) 令和 7 年度下期に締結した新規契約の点検について
- (6) その他

V 議事概要

- (1) 前回開催した委員会の議事概要について、確認がなされた。
- (2) 令和 7 年度調達等合理化計画の自己評価に対しての点検について
契約課より、令和 7 年度の調達等合理化計画の取組状況及び今後の取組について説明があった。
委員より、オンライン研修の受講率に関する質問があり、契約課から、所内で実施している主な研修の受講率や受講促進に向けた取組等について説明があった。
点検の結果、了承された。
- (3) 令和 8 年度調達等合理化計画の事前の点検について
契約課より、令和 8 年度調達合理化計画案について説明があった。
委員より、検収件数に対して契約件数との違いなどの確認があり、契約課から、その違い及び検収業務の流れや体制について説明があった。
また、委員より、引き続き検収の品質を重視して取り組むよう意見があった。
点検の結果、了承された。

(4) 令和 7 年度理化計画に基づく理事長が定める基準の取組状況について

契約課より、令和 7 年度の調達等合理化計画に基づく理事長が定める基準の取組状況及び今後の取組について説明があった。加えて、複数年契約を締結した案件、事前説明会を実施した案件などに関しても詳細な説明があった。

委員より、昨今の資材の高騰や不足による影響の有無について質問があり、契約課から、外部要因を起因とする場合には変更契約や納期延長といった対応をしたいなどの要望がでているなどの説明があった。

また、委員より、不落随契案件に関する質問があり、契約課から、不落随契となった経緯や考えられる要因について説明があった。

点検の結果、了承された。

(5) 令和 7 年度下期に締結した新規契約の点検について

契約課より、令和 7 年度下期に新規に締結した契約のうち、契約金額上位 3 件(随意契約 2 件、一般競争契約 1 件)に関する詳細説明があった。

委員より、前年度から契約金額が変更されていない案件も見受けられ、物価上昇などの影響による事業者負担の増加を懸念する意見があった。契約課から、予算の制約もあるが、必要に応じて要求元部署と調整し、予算増額を求めるケースもあるとの説明があった。

点検の結果、了承された。

(6) その他

契約課より、令和 7 年度に行った少額随契の基準額の改定による影響分析について説明があった。

委員より、競争性と透明性を確保するために重点監査対象として取り組むよう意見があった。

(7) 事務局より、次回を開催を令和 8 年 12 月頃に行いたいと提案、了承された。